

## 平成 25 年度第 3 回人生二毛作推進県民会議 意見概要

※網掛け箇所は付箋による意見、網掛けが無い箇所は口頭による補足説明

## ① 「コーディネーター」はどんな役割を担うか？

## つなぐ

- 企業と高齢者をつなぐ。(高齢者の方のお話を聞いたり、企業の方のお話を聞いたりし、働きたい高齢者の方が企業で働けるような橋渡しをする。)
- 希望などをスムーズに伝える役目(例えば、使えなくなった農地を誰かにお願いするなど、情報を伝える。)
- 高齢者の方が何をしたいのか、そのニーズを把握し的確に関係機関につなぐこと。どこの機関でどんな相談ができるかの把握(高齢者の方は非常に色々なニーズを持っている。漠然と何か相談したいなというのをしっかりつないであげることが大事)
- 高齢者のやりたい事、ニーズを実現できそうな団体への紹介(一つ窓口を決め、本当にやりたい事を実現できそうな団体へ紹介をかけてあげる。)
- 私の団体は 13 地区に分かれ、1つの地域にまとまっている。その中心にボランティアコーディネートセンターがあり、各地区の問題や要望等をまとめ、それを必要とする所へつないでいる。(小牧地区は 13 地区あり、だいたい地区にボランティアの仕事がある。仕事がしたい、ボランティアをしたいという方がいれば、支所の 2 人のコーディネーターが専門に紹介している。)
- 双方の意見を取りまとめ調整する。(連絡調整をして、それぞれの思いをマッチングさせる。)
- 高齢者の社会参加に関係する地域の機関、団体と顔見知りになる。(ネットワークづくり)(現在、市町村や市町村のボランティアセンター、シルバー人材センターなど色々な所が、コーディネーター的な事をしている。新たに作るのではなく、その地域で色々な形で活躍されている方とネットワークを作り、そもそもどうしたらいいか分からないという人は全体のコーディネーターの所へ相談に行けば必要な橋渡しができる。ここで想定するコーディネーターは、地域のコーディネーターや相談員とネットワークを作りながら、そういう人達の底上げをしてくれると、地域全体がますます元気になるのではないかと思う。)
- 高齢者が社会参加したい時にその相談に応じ、情報提供したり、適切な場所に引き継ぐ。
- 本人の経験、知識からみて、希望する事業(創業)に関する適切な助言をする。
- 高齢者の情報と各関係団体のニーズの調整、取りまとめ
- コーディネーターを通して、高齢者を適所(就業、創業、社会活動)に振り分ける。
- 市町村や各機関、団体等で、相談に当たっている人達のネットワークを構築し、全体のノウハウの向上を図る。
- 高齢者が参画したい職場や団体などの情報収集。高齢者の意向・希望調査→地域、職場等への情報提供
- 本人が希望する内容に関連する機関へ、仲介役として紹介等してあげる。

## つなぐ

- どんな相談でも受け止め、関係機関(企業、学校、グループ等)につなぐとともに、一緒に考え、活動(創業)を支援する。

## 情報収集

- 必要とされる分野の詳細情報の把握および整理(行政的な観点になってしまうが、情報の把握とそれを分野別に一覧にし、整理しておくことがスムーズにいくポイント)
- 高齢者の社会参加に関する地域の情報を収集・整理していく。
- 就業意欲のある方(人材)の情報収集(高齢者がどういったことをやりたいかを情報収集してつなげていく。)
- 就業先情報や社会参加メニューを熟知している。(色々アドバイスや提案ができるかなりの専門性が必要)
- 情報収集と発信(集めに行くという意味の情報収集。待っているのではなくて集めに行く。色々な社会の動きの中からこんな事ができるのではないかなという情報を作っていく事もある。集めてきた情報は発信しないと届かない。それをどういう風に届けていくのが大事)
- 社内のコーディネーター 自社の高齢者の就労可能職種の開拓並びに地域の高齢者の求人情報等の収集と社内への周知(企業の中にいるコーディネーターは、自分の会社の従業員のスキルはよく知っているので、そのスキルに見合った高齢者の職域の開拓という事もやっていくべきではないかと思う。自社だけではそういったニーズに対応できなくても地域の他企業、あるいは農業とか林業とか他産業の求人の情報なども幅広く集めて、社内の従業員に周知徹底していくような役割が期待されるのではないかと思う。)
- 相談内容に応じて、ワンストップで回答する。その場合、回答や支援についてノウハウを持つ支援団体と広くネットワークを常に持っている。(コーディネーターに期待されるのは、支援団体等のネットワークを後ろに控えながら、色々な知識を広く持って相談に応じられるスキルを身につけていること。そういう方だと相談者は安心できる。コーディネーターを通して、ワンストップで相談にお答えできる方が安心である。)
- 希望、要望を親身になって聞くとともに現状の情報提供をする。(本人の希望をよく聞いて、それに対して現状の情報をしっかり提供する。そういうものはどこへ行って探せばいいかを的確に教える。だからある意味本人の希望に対して厳しい事を言わなければいけない事もある。どんな経験をしてきてどういう事で貢献ができるかを聞き、本人にとっては辛いかもしれないが、希望に対しての現実の世の中の厳しい状況を伝えることも大切である。)
- 情報全体を把握している人で、情報を求める人等への相談対応やマッチングをする。(全体の情報を把握していることが必要であるが、全部というのは限度があるので、例えばボランティア、シルバー人材センターに関連した情報がある程度知っていて、その方の求めるものとマッチングしてあげるというのが1番の役割である。)

## 情報収集

- 地域や職場等がどういう高齢者を欲しているか？といった情報の収集と発信(求人) (長野県らしさを考えていた時に、ただ単に高齢者のニーズと地域のニーズを繋ぐのではなく、長野県らしさをコーディネーターを通じて恣意的に誘導する。例えばこの地域だったらすんき漬けで地域おこしができるなど地域やコーディネーターに働きかける事が必要である。)
- 社協、人材センター、公民館等のコーディネーター 地域の高齢者の就労可能情報の収集と地域企業への情報提供
- 企業が求める人材の要件の取りまとめ(経験、知識、技能、趣味など)
- 求人に応募してきた高齢者への自分の経験、知識に基づく適切なアドバイス
- 高齢者、支援組織それぞれの現状を確認し情報発信
- 高齢者はすごいパワーとなると代表してアピールする。
- 高齢者の社会参加に関し、地域住民などに普及啓発する。
- 就業、起業、地域活動のための情報のデータベース化と受発信。高齢者のニーズのデータベース化とマッチング

## ニーズの把握

- 高齢者と地域のニーズの把握(高齢者が何を望むのかを聞くのと同じ様に、高齢者の方に何が望まれているかという、両方のニーズの把握が必要)
- 相談者の話をしっかり聞く。何がしたいのかをはっきりさせる役割(何がしたいのかをよく話をする中でご本人も整理が付くし、聞く側もどういうアドバイスができるのかというのも分かる。それから次のステップで専門の方につなぐという方向に持っていける。)
- 高齢者自身の思い、ニーズの掘り起こし

## 場づくり

- テレビ局内に部署を設ける。(広く情報を求め、情報を届けるためにテレビやラジオなどメディアを活用する。)
- 起業、創業、社会活動に必要なノウハウの研修プログラムづくりと講座の開催
- 起業、創業を考える人の集まる「場」をつくる。起業を考える人同士の情報交換とコラボできる仕組みづくり
- 高齢者のインターンシップできる場の開拓

### 能力の発掘

- 本人の特性をつかむ。本音を聞きだす。(一番何がしたいのかを聞きながら、その人が最も力が発揮できるような所を紹介できれば、その人の特性をうまく使えるのではないか。)
- どんな雑談も受け止める。(積極的に聴いてニーズを受け止める。)(その人らしさやその人が本当に考えていてもやもやしたものを受け止めるためには、どんな雑談も受け止められる様なコーディネーターの能力が必要だと思う。その中から新しい活動への道を作りだしていく事がコーディネーターには必要)
- 身近にある存在であってほしい。(話しやすい人、環境)(雑話でもいいから聞いてくれる人、身近で顔の見える人、人材が必要だと思う。まずは人柄である。)
- 高齢者の能力の発掘
- 地域とその人に最もよい形をつくりだす。(創造性)

### その他

- 高齢者の方が生きがいを持って参加できるようにする事が必要
- 生きがいを持ってとか元気にとというのは究極の目標だと思う。そういった所をしっかりと見据えて取り組んでいく事が必要
- コーディネーターの人柄にひかれて相談に行く場合もあるので、その人自身のマンパワーも重要
- 当町もシルバー人材センター、自主的にシルバー人材センター的な事をやっている団体、農業などのボランティア団体等があるが、ネットワーク化して定期的な情報交換をすることが大事であると思う。
- コーディネーター自身、退職された方になっていただくと、色々な社会的な知識、経験があり、いいアドバイスがいただけると思う。
- 各JAにも農業法人関係のコーディネーター推進員がいるが、自分達の中で解決できないことが多いので、他の団体と情報共有をしないといけないと思う。
- 会社を定年退職された方で自分の家の農業をやりたいとか、農地がない方でも体を動かして農業をしたいという方もいるので、マッチングできている地域もある。

### ★上記①の意見に最も共感した事柄、意見等

特に意見なし

## ② 「コーディネーター」をうまく機能させるには、どうしたらよいか？

### コーディネーターの育成

- 専門家(コーディネーター)の育成(コーディネーターには知識も大事だが、さらに聞き手としての傾聴力がある事が大事である。誰でもいいという訳ではないので、育成が必要である。)
- コーディネーターをどの様に発掘(依頼)するか？(コーディネーターは多岐にわたるという事で、全ての分野を把握される方というのは非常に難しいと思う。そういう中で、その地域にどれだけの人を配置するが問題になる。専門性を持った方も必要だし、地域で名の知れた方、親しみのもてる方、経験が豊富な方も必要で非常に難しい。その中でコーディネーターとなりうる人の発掘というのが必要)
- 聞き上手な能力を持つコーディネーターがノウハウを伝授(聞き上手になることがまず第一。聞き上手になるノウハウを持っている方が、多くのコーディネーターに教えてあげればいい。)
- 男性、女性バランスの良い配置を(おじさん力、おばちゃん力)(就業、創業では、やはり男性の方が企業論理には強いと思うが、ボランティアコーディネーターは圧倒的に女性が多い。ボランティアには、いわゆる女性のソフトなおばちゃん力のようなものが非常にいいが、就業まで視野に入れると男性のおじちゃん力がいい。企業論理に詳しい、数字に強いといったおじちゃん力と柔軟でソフトなおばちゃん力がバランスよく機能してくるといいと思う。)
- コーディネーターの中から事務局的作用を果たすコーディネーターが必要(コーディネーターの中心になるのが、この県民会議の事務局である県ではだめではないかなと思う。行政的なものが中心になるとそれなりの動きになってしまう。もちろん行政や各種団体がバックアップする中で、コーディネーターをやっていただけの積極的な人の中から中心人物を数名ピックアップし、その方達を中心になって、例えば各地域にコーディネーターを置き取りまとめ役をする。労福協で依頼を受けているPSセンター的な役割を果たせるのではないかと思う。)
- コーディネーターの定例会や勉強会の開催(情報共有)(地域、人員の配置は分からないが、コーディネーター同士の事例を情報共有する事で、よりよい効果が得られる。)
- コーディネーターのスキルアップ研修(スキルアップとは、勉強して傾聴できるようになることもあるし、社会の流れについて勉強することでもある。こんな事をやっているという地域ごとの情報交換も含めての研修が定期的に必要なである。)
- コーディネーターの育成(行政支援)とチーム作り
- まずは、本部に専門職としてのコーディネーターを1人配置。4エリアのコーディネーターの人材育成とプログラムづくりを行う。情報の収集と体制づくり。
- 「人生二毛作県民本部」に専門職としてのコーディネーターを1人配置。4エリアに配置するためのコーディネーターの育成。将来的には、10 地方事務所、各市町村に相談窓口を置く。

### 適切な人材

- 地域に顔が売れている人材を配置(地元の人)(地元の方で、名前を言えば「あの人だ」と分かる方がニーズや地域のことを知っている。)
- 多くの選択肢を提供できる。(提案も含めて)(せっかく相談に行くので、この人に相談すればよく聞いてもらえると思ってもらえる人を配置する。)
- どういう能力、経験、知識を有するコーディネーターがどこにいるかを周知すること(カルチャースクール講師宣伝、新聞折込みのようなもの)

### 相談しやすい環境(場所)

- 巡回、訪問して話を聞く。(安心して相談できるという事が大事だが、なかなかその場所に行って相談するところまで至らない企業や団体、高齢者の方がいるので、訪問(御用聞き)をして、何か困っている事はないかという切り口でお聞きしたら、色々な問題も抽出されるのではないか。)
- どなたでも気軽に集える場所が必要(身近な場所)
- 生活圏域ごとにセンター(仮)を設置し、身近な所で機能(地域密着型)(身近に生活をしているエリアだと、本当に密着した形で機能できる。コーディネーターの活動範囲をあまり広くしないで、相談する場所が地域密着で、生活圏域に1箇所がいいと思う。中学校の範囲位で)
- コーディネーターは気軽に相談に行ける施設や場所にいること。(巡回もできる。)(人材である高齢者も行きやすく、また、関係団体も行けることが必要)
- 身近な所への配置(市町村役場が理想?)どの機関でもその配置先の案内ができること(ちょっと足を運んで相談したいと思える所に必要で、最低でも市町村役場の範囲に必要ではないかと思う。シルバー人材センターも県下20何箇所あって、既に色々な地域の高齢者のできる事ややりたい事を把握している。シルバー人材センターもいいのかという気もする。コーディネーターがこういう所に配置されて色々な相談ができる事をしっかり周知していく事が、機能をさせる1つのポイントである。)
- 市の中でも地区ごとに1名位配置し、その他に縦割りの各団体のコーディネーターで構成する縦横のつながりがうまくつながるか。(各中学校区に1人位、コーディネーターを取りまとめる人がいて、そこにプラス、各団体の縦割りのコーディネーターがいる。例えば市では、横の地域全体をみる人が何人かいて、その下にも機能的な縦割りのコーディネーターがいて、協議会の様なものを作れば地域としてまとまるのではないか。)
- (地域密着で)なるべく小さな単位で。(現場+チーフ的なコーディネーター)(中学校区の単位にあり、それを市町村の単位に、それを圏域の単位に、それを全県の単位にというレベルごとになっていて、どこに行っても同じ様に、どれだけ小さな単位に行っても同じ様に気楽に相談ができればいい。)

## 相談しやすい環境(場所)

- 高齢者自身による団体やグループが担う。(運営団体をどこがやるのかと考えた時、高齢者ではない人が担うのではなく、やはり高齢者自身がやっていくことが1番必要だと思う。それによって、その人達自身も発信できるし、実際にはコーディネートをうまくいくのではないかと。高齢者自身による高齢者自身のためのグループが担えばいいと思う。)
- 広い県内を少ない人数でカバーするため、ラジオのパーソナリティーが行うのはどうか?(親しみやすさというのを考えた時に、ラジオの身の上相談のコーナーがあるが、振り分ける中心にそういうパーソナリティーの方がいて、各分野、例えば福祉分野や就職分野などの専門の人が来て、コーディネートするというのはどうか。)
- 当面は地方事務所(保健福祉事務所)単位に1人配置する(市町村の枠を越える)(中学校区に配置というイメージが出され、確かに理想だと思うが、地域にそれぞれ個々の相談員、コーディネーターがたくさんいるので、そういう人達を活かしながらやる事が大事である。県でやるべきところは、もう少し範囲を広げ、市町村や小さな単位ではできない所を広域的にカバーしていこうという発想の方がいいのではないかと。)

## ネットワーク

- ネットワーク会議を置く。(このネットワーク会議というのは、その他の分野のコーディネーターや関連機関とのネットワーク会議のことである。)
- 地域別・区域別(生活圈を考慮して)・分野別(メニュー) 複数人によりネットワークをつくる。(理想的には区単位になるかと思うが、小さい所から積み上げ、それを広い単位で集約できればいい。)
- コーディネーターを擁する団体のプラットフォームとして中心になる組織が必要。高齢者の社会活動を支援するノウハウを持っている既存の協力団体に取りまとめてもらう。(それぞれの団体でコーディネーターがいる事を踏まえると、それを統括する人や団体が必要である。特に高齢者の社会活動を支援するノウハウを持っている団体がいいだろうと思う。行政ではない方がいいという意見もあったし、前回会議でも長野県らしさという話もあったので、長野県として支援についての統一方針を踏まえて活動していく方が統一性が出ていいと考える。)
- 一定単位毎に配置し、一定単位に統括し、情報交換会、スキルアップ研修会をする。(コーディネーターに1番大切なのは温かい心を持っている事。知識は浅くてもいいから広い知識を持っていて、これについては誰に相談すればいいかなど、相談の引き出しをたくさん持っている人が望ましい。コーディネーターを統括して情報交換会をしたり、技量を磨くスキルアップが必要になってくる。統括組織みたいなものが必要である。)

## ネットワーク

- 活動がしやすい広域単位ぐらいに、コーディネーターの配置と定期的に情報交換をする会議を開催する。(中学校区という飯綱町では町に1人という単位になるが、それよりも、それぞれの団体のコーディネーターを地域の資源として活かす事が、支援や就業に結び付くと思う。今すぐできる課題としては、今、既にいるコーディネーターを束ねるコーディネーターを1人広域的に用意して、定期的に情報交換や人材育成のための学習会を行う。ネットワークの中でそういう必要なものを考えていったらいいのではないか。)
- 地方事務所単位で本日お集まりの皆様等の関係団体で連絡協議会をつくる。(地方事務所や郡市単位の集りの中で、緩やかに連絡協議ができるといいと思う。例えば農協に相談に来たが、そこだけでは補えない事が、こうした情報交換を通じて福祉や教育、公民館などにうまく緩やかに繋げていく。そしてどこか中核になってもらう所が必要であると思うので、健康福祉等でコーディネーターを1人置いて、取りまとめをすればうまく機能するのではないか。)
- 地域や職種(コーディネート対象)を越えた交流(就職、創業、社会参加というのは大きなくりの中でコーディネーターという話が出ているが、それぞれのレベルの枠を越えた、また、例えば長野地域でみれば松本地域との交流など。そこで就業の話聞きながら実は創業の話が出てきたり、コーディネーターは色々な情報を持っていると思うので、枠を飛び越えた交流が必要。)
- 地域に配置するが、定期的に県全体のコーディネーター会議を開き、県内の足並みをそろえる。(やはりコーディネーター1人お願いしておくともコーディネーターも大変孤独になってしまうという問題があるので、もちろん地域ごとのネットワークで支えてもらうという事は大事であるが、時々県レベルで同じ立場の人が集まって、愚痴や悩みを正直に打ち明けながら情報交換をしていくと、全体の底上げにもなっていくのではないか。また自分だけではなく、他でも同じ様な人がいるのだという事で頑張れるのではないかなと思う。)
- 企業のコーディネーターと地域とか関係団体(NPO団体、社協とか)の交流はほとんどない。行政が呼びかけて、相方のお見合い(情報懇談会のような)などを開催し、相互交流を促進し、情報の共有化を図る。(立ち位置によって活動の内容は異なってくる。その中で、例えばこの県民会議でも、私達が普段知らない情報がどんどん出てくる。私達、企業の中では「あの人はこういう専門的な知識やスキルを持っているから、定年後もこういった仕事ができる。」とわかっているが、地域でどんな活動があって、どんな人を求めているかという事が分からない。活動をしている人達と現役世代のお見合い会の様なものやってみると、お互いどんな事をやっていてどんな人を求めているのかが分かって面白いのではないか。)
- 私達も色々な分野の方と組織づくりをやっているが、農業の分野の方とできるだけ知り合いたいと思っている。その方からオファーがくればすぐ入りやすいが、逆にこちらからもお話を伺いたいが、どこに行ったらいいのかわからない。こういったネットワークの中でお話をいただく機会があると、色々な繋がりが広がってすごくいいと思う。



## ネットワーク

- 中山間地の商店等が廃業というケースが多くなっていて、その地域の経営資源等を考えるとそれを引き継いでいただく方がいないかと常々思っている。お見合いの話もあったが、そういった事を企画したいと考えている最中である。是非、情報があれば引き合わせる事ができるのではないかと思っている。
- 高齢者の社会参加に関する機関、団体で構成される地域会議を設置し、コーディネーターとともに地域の連携を図る。
- 企業や活動団体からの情報を集約し、ほしい人(コーディネーター)へ情報提供できる仕組みづくり

## 活動支援

- 多くの情報をコーディネーターに提供し、活動しやすい様に協力する。(ネットワークの中に医師や会社の方など入っていただき、その方々の要望やこういう仕事をしてほしいなど色々な活動の場を提供していただいて、1つでも多くコーディネーターがその種を持っている様になったらいいと思う。)
- 活動費用の財政的支援、補助(旅費、謝金等)
- 定年退職者位の方にアンケートみたいなものを書いてもらい、データとして人材登録のような形にしてスムーズにつなげるようにする。(定年される方や企業に協力いただいて、定年される方はこちらの方からこういう取組がありますと知らせるとともに、定年される方は何ができるのかとそういう情報をこちらに返してもらい、コーディネーターに取り次ぐという形がとれればいいのではないかと。)
- 地域情報の一元化、様々な分野の情報が集まる仕組みづくり。コーディネーターのための相談ホットラインの構築(創業から社会参加だと色々な分野に渡るので、自分の所以外の分野は分かりにくいと思うので、例えば、ここに行ったら懇切丁寧に対応してくれるとか、いずれにしてもネットワークがきちんとできてさえいれば、色々な対応が可能となる。)

## その他

- シルバーセンターに入会なさる方には、健康づくりが入会の要因という事もあるが、中には、今までやってきた仕事とは全く違う分野の事をやってみたいという方もいるので、場合によれば、定年退職する人達も若者と同様に、インターンシップで他分野の経験を試してみるのもいいのではないかとと思う。

## ★上記②の意見に最も共感した事柄、意見等

### コーディネーターの育成

- 聞き役となるコーディネーターをまずは育成していく。それからネットワークという方向に結び付けていけばいいという気がする。
- おじちゃん力、おばちゃん力という言葉がすごく印象に残っていて、それぞれの個性というものがありながらバランスよく人を配置するという事が印象に残った。

### 相談しやすい環境(場所)

- まず、人を知るという事が最初ではないかと思った。
- まずは形からしっかり整えていく。それで内容を充実させていく。こういった意味でどういった所にコーディネーターを配置して体制を整えるかが大事である。

### 適切な人材

- コーディネーターの育成とかぶる部分もあるが、まず適切な人材がいればその方を登用する。そこで、大勢必要になってくれば育成にも繋がってくるのではないかな。
- コーディネーターを委嘱していく時に、今日からコーディネーターと言われてもできないので、しっかり業を担っていただける方を優先して採用し、最後はしっかりマッチングをしなければいけないので大事だと思った。
- コーディネーターになると重圧もある。色々な方から信頼のおける人材が必要であり、ネットワークを活かしていくにもそういう方がよいのではないかな。

## ネットワーク

- 3つにテーマに共通しているのはネットワークである。ネットワークといっても色々な立場の人や団体が情報の共有をするという事だと思う。情報の共有から就労支援とか社会貢献活動の人の育成に繋がってくるのではないかと思う。やはりこれがポイントである。
- 人は代わったことによって支障があるが、ネットワークができていれば最低でも情報はクリアするのでネットワークが大事である。
- 他機関との連携共有というのは、どの部分でも大事である。決して無理はしないで連携できる部分から連携していくという事が大事だと考えた。
- プラットフォームという所に印象が残った。ネットワークといっても誰々の人脈というものが資源になるとしても、実際に機能して持続させていこうとした時には、そのプラットフォームとしての機能が必要になるし、それを担ってくれる中核となる団体、組織が必要である。
- 情報共有や色々な繋がりがなければ、物事が進まない事が多いので、ネットワークは非常に大切だと思った。
- どこに相談をしても、どこにでも繋がっていくという仕組みが大事だと思ったので、ネットワークが1番重要である。
- まずは風通しの良い情報交換という所でネットワークにしてみた。
- 高齢者が人生の後半をどうするかという事で、そうすると選択肢が広い方がいい。我々、受け皿としてもネットワークを組んで、広い受け皿を作る必要があると感じた。
- 私は日ごろ介護、医療、福祉の分野にいるのが、今日、色々な団体のお話を聞いて本当に知らない事が沢山あって、多職種連携という事が必要だと思ってネットワークにした。
- 世の中に色々なコーディネーターがありますが、どうしても孤立しがちである。孤立させないという意味でもみんなの後押しをしていきたいと思いますという事で重要である点と、長野県らしさという点では、長野県にある色々な地域や団体の繋がりが他県に比べて強いと思っているので、この分野でも色々な人達が連携して、高齢者の社会参加を進めていくのだという特徴も出せるのではないかなと思ってネットワークにしてみた。
- 先程、コーディネーターは温かい心があれば深い知識がなくてもいいと言ったが、その弱点をカバーするのはネットワークの活用だと思う。
- それぞれの機関が連携して、プラットフォーム化、広い範囲でのネットワーク化が重要と考えた。

### ③ 各機関、団体は「コーディネーター」とどんな連携、協力をするか？

#### 人材育成・養成

- 雇用・就職相談、各機関のご案内(就業、創業、社会活動)、コーディネーターの育成(カウンセリング方法)(雇用・就職相談というのはハローワークの本来の仕事であり、コーディネーターから連絡をいただければしっかり取り組む。ハローワークでは高齢者の方については人生相談的な相談も非常に多く、実際には就職しなければ困るという人も当然いる。また、漠然と何かやりたいという相談もかなりあり、シルバー人材センターなどが中心にやっている臨時・短期的な就業をご案内していく。コーディネーターの育成も必要であり、その部分での協力は、私どもの機関としてはカウンセラーの資格とかキャリアコンサルティングの資格を持っている職員が大勢いるので、そういった意味での育成はできる。)
- シニアボランティア養成研修など共同開催(市区町村の社協でやっていて、県社協でも色々関わっている。今までは社協のボランティアセンターが主催になって、ボランティアの養成をやってきたが、こういったコーディネーターが活動を始めると、そういう方と連携をしながら、今度は、地域で高齢者がどのようにいきいき暮らしていくかという事に視野を広げて、もう少し色々な事ができる様になると思う。)
- 市の当課では、介護保険説明会として65歳になる方全員を月別にお呼びして説明会をしている。その場をかりてボランティア地域デビューしたい人、シルバー人材センターに登録したい人などのために、少し時間をとり、情報提供したら周知度はすごくアップするかもしれない。(わざわざ人を集めなくても、関係団体の方が来て話をしていただければ、周知度だけはアップするのではないかと考える。)
- 地域の名物人材発掘(ボランティア活動、地域の活動をやっている高齢者の方はすでにいるので、そういった方達の情報を提供し、その人達が楽しげにきらきらしている姿をご紹介ができる事がいいと思う。)
- 行政の立場から、コーディネーターの設置に必要な予算の確保。コーディネーターの養成や育成の機会の提供を行う。
- 「地域おこし大学(仮)」で地域参加の為のノウハウ、専門知識を提供し、人材育成する。

## 情報を活かしマッチング

- コーディネーターが取りまとめた情報を元に各支所に情報を伝えて、マッチングの可能性を探る。県域ネットワーク会議を作るなら、本当にマッチングまでこぎつけるように実行性のある情報をつなぐ。(私の所属は県域の組織で、各地域のJAの各支所に無料職業紹介の窓口があるので、そういう所に情報を繋いでいく。最後のマッチングまでこぎつけてこそコーディネーターの情報が活きるのではないかと思う。)
- 地域にある高齢者の課題や高齢者の力を待つ課題の共有(社協には色々な地域の課題が集まってくる。そういう中には、高齢者自身の課題もあるし、高齢者の方を待っている課題もある。高齢者に、こういう所で力を活かしていただけないかとか、こういう事を一緒に考えてみませんかという事をお話していく事ができればと思う。)
- 中山間地のコミュニティービジネス(スモールビジネス)の創業希望者を応援します。廃業予定者の経営資源の引き継ぎを含むマッチング支援をします。(逆に人の紹介をしていただけるお話もある様なので、是非マッチングをする機会を設けられるのではないかと思う。)
- 高齢者の特技、希望、ニーズの受発信(シニア大生、賛助会員の意向を調査して)

## ネットワークづくり支援

- 支援を必要としている方の手伝い(コーディネーターに連絡をとってやっている事は、日常のごみ出しとか草取りとか植木の手入れなどで、また、趣味の会でこういうものを作りたいなどの相談があった時は、公民館のサークルとしてやったらどうかということを提案し、だいぶ色々なサークルが増えた。)
- 地域で行っている「ふれあいいいききサロン」との連携(アウトリーチなど)。「ふれあいいいききサロン」は小さい地域の中で、高齢で元気な方が集まって色々楽しくやっている。そういう所でコーディネーターに来ていただいて、これからの人生どうしようかみたいな事をお話いただければ、参加者を集める苦勞なしにできるのではないかと思う。)
- 再就職を希望する者の相談を受ける(受けた)コーディネーターについては、当該企業等の労働条件を提示いただければ、それに対するアドバイスができる。(私どもの団体は労働組合という立場で、コーディネーターに対しての連携が非常に難しいと思いながら考えてみた。どうしても企業によっては、例えば時給 600 円ですよという提示をされ、若干疑問を持ち、それをコーディネーターに相談をされた場合、そういう部分に対しての助言、ご相談は受けられる。私どもは積極的に就職支援できない。)
- 福祉分野だとケアマネジャーの役割り・・・家族、医療機関、行政、地域のボランティア等々をつなぐ。その人らしい人生を送るにはどのようにしたら良いかを第一に考える。(高齢協に所属しているが、通所介護の介護福祉士としてそういったことも心がけていく。住みやすい環境を作るという事で、希望などを聞いていくのが第一だと思う。)

## ネットワークづくり支援

- 「地域をどうするか」コーディネーターと共に考えたい。(地区懇談会で、地域の計画を作ったり、これからどうしていけばいいかという話をする事があるが、そういう時に高齢になったらどういう風に生きていくのかという事を、自分の生きがいという事だけではなくて、地域をどうするかという事も入れながら話し合うことができればと思う。)
- 行政の立場から、地域ごとの連絡会議(ネットワークづくり)が設置される場合、関係団体への協力依頼、開催への支援等を行う。(コーディネーターが活動するためには地域のネットワークが必要だが、それを誰が呼びかけるかというところで、ネットワークだから誰が呼びかけてもいいが、県としても広域的な行政を担う立場から皆さんと一緒にやりませんかと呼びかけていくという事が重要だと思うし、また、それは我々にできる事として重要な事と思っている。健康長寿が更に維持、発展していく上では、県行政としても重要なテーマであると思っているので、それを市町村や色々な方に是非、協力をお願いしたいと思っている。)
- 多様な関係機関(社協、公民館、老人クラブ、JA、観光、シルバー人材センターなど)との連携(相談、コーディネート)

## 情報提供

- 経済団体は加盟企業の高齢者雇用、新規創業に関する情報を取りまとめ、各企業のコーディネーター(人事担当者等)に提供し、高齢者の就業を促進する。(経済団体として我々自身が直接できることは少なく、加盟している企業がどんなニーズがあり、どんな人員がいるのかなどの状況を把握し、それを各企業に戻している。特に最近、若者・高齢者を雇用してくださいと企業もたくさん言われ、なかなかタイトになっている。その中で、人生経験が豊かでスキルを持った高齢者がたくさんおられるので、そういった方々の就業を少しでも促進していければと思う。また、リタイアしても、その技術をもって創業できる可能性も非常に高い。これについても、お手伝いができるかと思っている。)
- コーディネーターを利用する、協力する、文句を言う、ほめる、他に活かす。(市町村は、直接関わっているが、県だと、成果だけ後で聞くなど一歩離れた関わりの様な感じがするので、正直に言うことは言うけれど、やるべきことはやるのだというのを少し表現してみた。更に管理機関の人達にも活かせるように周知する事が大事だと思う。)
- 高齢者支援をする立場(当団体)から、まず、コーディネーターに情報提供をさせていただく。(ニーズを伝える。)(私はケアマネージャーとし、また、地域包括支援センター所属として広く高齢者を支援している。独居高齢者、高齢者世代が大変増えている中で、色々な問題がある。コーディネーターに、高齢者支援の中で色々困っている事、あるいは制度の狭間でサービスが提供できない事などをまず知っていただく。地域包括支援センターの立場として、介護者が65歳を超える方が大変増えてきて、介護者から生きがいをもって少し働きたいという相談をいくつも受ける。シルバー人材センターを紹介すると、65歳位だと自分はもうシルバーの域に入っていくのかといった感想を持たれるようである。時代は変わってきているので、ネーミング等も少し検討していただければと思う。)
- 起業・創業のための支援をしたい。特に仲間を募って行う連携組織の情報提供と支援。支援施策の周知(私達は起業、創業される方のお手伝いをしてきたと思う。今までのスキルを活かしていただく事をお願いしたい。私達は企業組合という制度を薦めており、例えば、お仲間を募って何人か集まって自分達で作った農作物を販売する直売所を作ったり、また加工してジュースやジャムにして付加価値を高めて売ったりなど。企業組合は結構あちこちで作られている。その地域の中で地域おこしとしてふさわしい組織ではないかと気がする。連携組織といったものがなかなか周知をされていないので、是非皆さんにも知っていただき、創業をしていただきたい。また、1人ではなかなか踏ん切りがつかないところもお仲間が募っていただければ、パワーも倍増、3倍増してくると思う。また、農業や介護分野の方と接点が今まで正直なところ十分なかったもので、こういう組織を使って色々な情報共有をしていきたい。)

## 情報提供

- 当振興センターは若者から高齢者まで創業を考える方の相談機関であり、特に高齢者の方の創業に関する案件があれば連携していきたい。研修会、相談会などの開催を一緒に実施(私ども中小企業振興センターですが、4月から、ながの創業サポートオフィスを設置しており、創業については力を入れている支援があるので、是非、コーディネーターを創業関係で設置した場合には、関係機関の1つとして連携をとっていきたい。私どものセミナーにシニア向けも計画、実施している。また、個別案件についても技能、計画づくりを含めて、専門家も一緒なつての相談体制があるので、是非うまく連携をとり、シニアの創業の実現に向けて支援できればと思っている。)
- 社会参画への生涯学習への提供。(公民館、図書館、生涯学習センターなど)。学校支援への協力要請(学校)(社会参画への協力は私どもが手掛けている分野である。例えば生涯学習推進センターを運営しているが、例えばコミュニティービジネスに繋がる学びの場を提供している。コーディネーターの養成研修など一部重なる部分もあるので、そうした所を情報提供し連携していきたい。またもう1つ大きな柱は、今、学校も地域の皆さんの力を借りて成り立っていて、活性化していくという問題がある。社会参画の1つとして学校支援ボランティアもその視野に入れて、その繋ぎ役としても協力したいと考えている。)
- ニーズを細分して、センターはセンターとして就業したい高齢者に臨時的、短期的、その他の軽易な就業を高齢者に提供できるよう、関係団体と連携協力する。(シルバーセンターは少しブルーなイメージがある。設立から30年経ち、本体事業がもう自立を求められ、国の補助金も絞り込みなどがある。第二ハローワーク的と言うか、ハローワークと連携して55歳位から就業支援という事で講習会等色々行っている。高齢になったら社会貢献をしようと呼びかけ、地域の方達もシルバー人材センターに入会してもらい、更に輪が広がる様なセンター活動ができればいいと考えている。)
- 創業支援策の情報をルール化して提供する。(例えば、県の施策もプレスリリースなどで公表する場合、県のホームページに載せるが、単にそういう事だけではなく、意図的にコーディネーターに文書やメールで必ずお伝えするなど何か一定のやり方をルール化してうまく回していけないかと思う。)
- 退職後、再就職を希望している人を登録。指導できることがあれば情報提供してもらう。企業の退職者に、働く場、活動の場の情報提供(商工会議所の経済団体として、あまり機能しなかったが、以前、OB人材マッチング事業をやったことがあり、退職される方に得意な分野等を登録して、企業とマッチングさせるという事を現在も続けてやっている地域もあるので、そういった制度をうまく活かしていけばという事と、逆に、今度退職される方がいる企業に対して、今こういう人材が求められているという情報を提供する事ができたらと思う。)
- 広く各団体に公民館の活動状況を説明し、周知していただきたい。(公民館としては、公民館活動原点の集う・学ぶ・繋がる、この情報をコーディネーターに提供し、コーディネーターは自分の関係している先へ是非お伝えいただきたい。それに対してのリアクションをまた公民館の方へ伝えていただきたい。そういう関係を築いていきたい。)



## 情報提供

- 介護保険制度について、介護事業の運営基準について、高齢者の施設について、介護人材の育成について情報提供する。(当室は介護保険を管轄しており、長野県は2020年が高齢者のピークで2025年は団塊の世代が後期高齢者という事であり、介護事業関係ではこれから人材が求められるところである。そういった介護保険関係の動向の資料提供や事業の動向等をお知らせしたい。)
- 地域ニーズの吸い上げ→共通する事項には行政として画一的な施策が可能かも。(細かなニーズというのは把握しにくい部分があるので、それぞれの地域、市町村単位やもっと小さな単位や県単位でニーズをコーディネーターから上げてもらって、それで共通する問題や課題があった場合は、県として市町村として施策を講じることができるのではないかと思います。)
- 情報交換を行い、高齢者就労に関しての現状・課題等の意見をいただき施策にいかす。(私どもは労働雇用課として、まず高年齢者の雇用についてあまり直接的に関わる事が少なかったため、どうしても机上での議論が多くなってしまっている。これからコーディネーターが配置され、ネットワークができれば、是非、定期的に意見交換をし、生の高年齢者の就労の現状や課題等をいただき、場合によっては施策に活かす事ができるのではないかと考える。)
- 行政の立場から、行政が持っている高齢者社会参加の場の情報を提供し、活用していただく。(県行政も商工労働部を中心に色々あるが、我々も長寿社会開発センターを通してシニア大学や賛助会の活動など色々あるので、コーディネーターにそういう情報を提供して、また地域で活用していただくという協力ができるのではないかと思います。)
- 情報の提供(求職、求人、空き店舗等)(市町村の役割として、細かい相談が結構くるので、その中の生活相談で経済的に仕事が欲しいというものもある。そういうものを情報提供する。)

## その他

- 仕事の発注(役場の仕事の中でも増えてきているが、例えば保育関係でも土曜、日曜、夕方と通常の時間外の仕事が色々な分野において多くなってきている。その点、高齢者の方は土日も比較的関係ないので、なんでも若い職員でまわすという事ではなくて、高齢者にできる仕事をしっかり住み分けをして発注をしていけば、高齢者の仕事の支援、コーディネーターの支援、最後は人生二毛作の支援になるかと思う。)
- 資金・運営等の補助、行政を抜いた形で回る組織づくりの支援(コーディネーターとの連携という中で組織の支援になるが、コーディネーターの支援等をして、それが浸透してくればあとは行政を抜いた形で転がっていくのではないかと、そういうお手伝いできたらと思う。)
- 県民の意識啓発の為の行政との企画と開催(今、時代が大きく変わってきている。そういう中で、県民の意識を大きく変えていかなければいけない。県民の意識を変える啓発のための仕掛けづくり、企画をし、それを広めていく事を県と一緒にできないかを今検討している。)

## ★上記③の意見に最も共感した事柄、意見等

### 人材育成・養成

- 組織づくりは皆さんと連携して短期間に作る事は可能であると思った。長時間かかるもの、これは人づくりだと思う。コーディネーターも人だし、コーディネーターだけではだめだし、リーダーを支える人の養成、これが結構重要ではないかと思う。すぐにはできない様な事、特に皆さん達と一緒にやってやらなければいけない事を考えると、人づくりにまず取りかかるべきだと考える。

### 情報を活かしマッチング

- マッチングまでこぎつけていく実行性のあるというご意見が印象に残った。確実にマッチングをしていくという実績を積み上げていく、ゆっくりであってもそういう事を発信していくと段々いい方向へ行くのではないかと気がする。
- コーディネーターに1つでも多くの情報を提供し、他の団体とマッチングしていくと、サービスも十分にできるのではないかと考えてマッチングにした。

### ネットワークづくり支援

- それぞれの分野で活動・活躍されていて、現場ならではの課題や実情はその人が一番分かっているので、そういう所の改善や工夫はやはり1番分かっている人がやっていただくのが大切なのではないかと。それらを活かすためのネットワークづくりが大切で、その為に行政ができることは、そのための仕掛けづくりや継続的な支援ではないかなと思った。
- 先程のテーマ2のネットワークの話になるが、仕組みを作ったからといってそこに頼ってばかりだといけないと思うので、構成する機関の方で、受け身という状態ではなくて、積極的にみんなで支援をしていくというイメージでネットワークづくり支援にした。